

令和3年度

全国学力・学習状況調査

調査結果について

藤沢市教育委員会

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要と目的

令和3年5月、令和3年度全国学力・学習状況調査が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、悉皆調査として実施されました。この調査は、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的としています。

なお、本調査で測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることが、国の調査実施要領で謳われています。

2 実施状況

(1) 調査実施日 令和3年5月27日(木)

行事等により後日(5月28日～6月30日)実施した学校 中学校 4校

(2) 実施項目

ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科に関する調査 (小学校：国語、算数 中学校：国語、数学)

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関する内容

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関する内容

(イ) 質問紙調査

調査学年の児童生徒を対象とした、学習意欲や学習方法、生活、新型コロナウイルス感染症の影響等に関する質問 69項目

イ 学校に対する質問紙調査

各学校を対象とした、指導方法に関する取組に関する質問91項目、新型コロナウイルス感染症の影響に関する質問11項目

(3) 実施校数 小学校 35校 中学校 19校

(4) 実施人数 (単位：人)

	国語	算数・数学	質問紙
小学校6年生	3,795	3,796	3,795
中学校3年生	3,224	3,225	3,223

3 平均正答率一覧表

(1) 藤沢市立小学校

平均正答率 (単位：%)

	国語	算数
全国 (公立)	65	70
神奈川県 (公立)	63	70
藤沢市 (公立)	59	70

(2) 藤沢市立中学校平均正答率 (単位：%)

	国語	数学
全国 (公立)	65	57
神奈川県 (公立)	65	58
藤沢市 (公立)	65	58

- ※ 全国平均正答率は、国から提供されたデータの小数第一位を四捨五入した数値である。
- ※ 神奈川県及び藤沢市の平均正答率は、小数第一位を四捨五入した整数値で国から提供されている。
- ※ 後日実施した学校のデータは、全国及び神奈川県の平均正答率等の集計値には反映されていない。
- ※ 国立教育政策研究所の令和3年度全国学力・学習状況調査報告書には、「全ての都道府県(公立学校)が全国平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない。」と表記されている。

4 教科に関する調査結果の概要

教科に関する調査結果の特徴は「おおむね理解していると思われる内容」と「課題があるとみられる内容」で構成しています。これらは次の3点のうちいずれか1つまたは複数に該当する内容を取り上げているものです。

- ① 本市の正答率に着目して、特に取り上げてさらなる向上を目指すべき内容である、または、課題となる点としてとらえ、授業や指導法の改善から学力の向上を図る内容
- ② 本市の解答率に着目して、解答ができなかった割合（無解答率）が取り立てて高いと思われる内容
- ③ 国立教育政策研究所の調査報告書の表記から、公立学校と全国の平均正答率について、±10%の範囲内は大きな差ではないという見解をもとに、正答率が±10%の範囲外となる内容

上記の3点を踏まえ、全体の結果を見ると、国語では、「思考に関わる語句を使うこと」「質問の意図を捉えること」といった、文章の内容を捉えたり把握したりする内容について、算数・数学では、「時刻を求めること」「表やグラフを読み取ること」といった数値を求めたり、情報を読み取ったりする内容について、おおむね理解している傾向にあります。一方で、自分自身の言葉で思いや考えを表現したり説明したりするような内容について、課題があるとみられます。

また、記述問題の無解答の多さが目立ったことや、小学校国語科の平均正答率が全国平均と比べ低い傾向にあることなども挙げられます。

これら課題に対して改善する手立てを検討し、取り組む必要があります。

※各教科の詳細は「5 各教科に関する調査結果の特徴と授業改善のポイント」において、「おおむね理解しているとみられる内容」「課題があるとみられる内容」「課題に対する改善の手立て」の順に記載しています。

5 各教科に関する調査結果の特徴と授業改善のポイント

(1) 小学校 国語

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 目的や意図に応じ、資料を使って話すこと
- 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること
- 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うこと

<課題があるとみられる内容>

- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること
- 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと

<課題に対する改善の手立て>

- 文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することが重要です。指導に当たっては、低学年のうちから日常的に主語を意識して述語と対になるように話したり文を書いたりすることや、修飾と被修飾の関係を理解させるために、文の構成に着目させることが大切です。また、文を読む際に書き手が一番伝えたかった核になる部分を見極め、シンプルに伝える練習を繰り返すことが効果的です。相手に伝わるように読んだ本や新聞記事等の内容を短くまとめる活動が具体例として考えられます。
- 自分の考えがよく伝わるように書くための指導に当たっては、目的や意図を明確にもち筋道を立てて表現することが大切です。読み手に考えがよく伝わるようにするために、文章のどこを詳しく、どこを簡単に書けば効果的かを考えるとともに、具体例を挙げたり根拠をもとに書いたりすることが重要です。また、話す活動に関連付けて、聞き手に話すことを文章化し、自分の考えがよく伝わるような話し方ができているかを、書いた文章から確かめる活動も考えられます。
- 漢字の指導に当たっては、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要です。そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、同じ音で読む漢字を集めたり、似た形の漢字を集めたりすることや、辞書やタブレット端末を日常的に利用して学習することを習慣付け、語彙を広げながら適切に漢字を表記できるように指導することが大切です。
- ◇全体的な傾向として、記述問題の無解答の多さが目立ちました。言葉自体に興味関心をもたせられるように、今後の学習活動の中で、条件に合わせて記述する機会を増やしたり、ICTを活用した学習を取り入れて語句を検索したり、思考ツールを使って考えを整理したりする経験などを積み重ねるように指導することが効果的です。

(2) 中学校 国語

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 質問の意図を捉えること
- 話合いの話題や方向を捉えること
- 文脈に即して漢字を正しく読むこと

<課題があるとみられる内容>

- 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の關係に注意して書くこと
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと
- 相手や場に応じて敬語を適切に使うこと

<課題に対する改善の手立て>

- 目的や意図に応じて、読みやすくわかりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるように指導することが大切です。文章を推敲する際の視点として、説明や具体例、描写などの観点に着目することや、その表現が自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて検討し見直すことで、読みやすくわかりやすい文章を書く力につながります。
- 文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導することが重要です。その際「読書」に関する事項とも関連を図り、新しいものの見方・考え方を知ったり、自分の考えが広がったりすることを実感し、その根拠がどこにあるのかを明確にすることも有効です。
- 言葉遣いについては、小学校での学習を踏まえ、敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導する必要があります。その際、公的な場面での改まった言葉遣いをするもののほか、会話をしたり手紙を書いたりすることも想定し、相手に応じた語句を選んで用いる学習を行うことがより有効となります。また、自分が発信した情報がどのように受け止められるかを想像したり、相手の状況や伝達方法の特性などを考慮したりして書くことも大切です。さらに、総合的な学習の時間における学習との関連を図り、「依頼のために電話をかける」「お礼状を書く」などの具体的な活動を通して、生活に役立てようとする態度を育てることが実践的な力として定着を図ることにつながります。
- ◇全体的な傾向として、話し合いの話題や方向をとらえたり、相手の質問の意図を捉えたりすることはできています。さらにその上で、自分の考えをもつことや自分の考えを表現する力を育むために、思考ツールや ICT を活用し、言語活動と関連を図りながら学習活動を展開すると効果的です。

(3) 小学校 算数

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること（変化と関係）
- 条件に合う時刻を求めること（測定）
- 棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ること（データの活用）

<課題があるとみられる内容>

- 三角形の面積の求め方について理解すること（図形）
- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述すること（図形）
- 小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述すること（数と計算）

<課題に対する改善の手立て>

- 図形の面積を求める公式を導き出す過程において、図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを理解できるようにすることが重要です。三角形の面積の求め方を指導するに当たっては、公式を用いる上で不要な辺や線分の長さを示した図から必要な情報を選び出す活動や、必要な情報が不足している場合、他にどこの長さが必要となるのかを考える活動が考えられます。その際、水平になっていない辺を底辺としている場合についても、必要な情報を選び出し、面積を求めることができるようにすることが大切です。
- 複数の図形を組み合わせた図形については、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えることができるようにすることが重要です。指導に当たっては、面積を求める公式を導くために、等積変形をしたり、合同な図形を組み合わせて変形したりする際に、変形する前の図形と変形した後の図形の関係を説明する活動が考えられます。その際、高さが底辺に垂直になっていることに着目できるようにすることが大切です。
- 小数を用いた倍については、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目することで、整数を用いた倍の意味を捉え直し、小数を用いた倍についても基準量を1としたときに比較量がいくつに当たるかという意味として理解できるようにすることが重要です。指導に当たっては、倍を整数で表せない問題において、テープ図を用いて、基準となる1に対する大きさを10等分し、0.1に当たる大きさの幾つ分でテープの長さを捉えることで、基準量に対する比較量をつかみ、小数を用いた倍を表すことができるようにする活動が考えられます。
- ◇全体としては、「言葉と数を使って書きましょう」のように、求め方を記述で説明する問題において正答率が低い傾向が見られました。指導に当たっては、日常生活における様々な問題を、数量の関係（数と計算）や図形を構成する要素（図形）、データの特徴や傾向（データの活用）などに着目して捉え、言葉や数を使って、筋道を立てて自分の考えを記述したり説明したりする活動を充実させることが重要です。

(4) 中学校 数学

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 与えられたデータから中央値を求めること（資料の活用）
- 問題場面における考察の対象を明確にとらえること（数と式）
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること（関数）

<課題があるとみられる内容>

- 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明すること（数と式）
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること（関数）
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること（資料の活用）

<課題に対する改善の手立て>

- 数の性質について成り立つ事柄を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切です。指導に当たっては、例えば、自然数を五つずつに区切った表で見出した事柄について、自然数を六つずつに区切った場合でも成り立つのではないかなど、条件を変えて考察する活動が考えられます。その際、自然数を六つに区切った表で新たに見出した事柄を、自然数を五つに区切った場合にも適用できるのか振り返って考えることにより、自然数の区切り方を変えても共通している性質を見出し、統合的・発展的に考察することができるようにすることが必要です。
- 様々な問題を、数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」とその「使い方」について考え、説明できるようにすることが大切です。指導に当たっては、例えば、実際に行った解決の過程を振り返り、そのときに用いた方法について、原点Oを通る直線のグラフをかくこと（用いるもの）と、 x と y の関係式にある値を代入して求めること（使い方）のいずれか一方の説明にとどまらず、両方を指摘し、的確に説明できるようにすることなどが考えられます。
- データの分布の様子を捉える場面を設定し、データの傾向を的確に捉えて判断できるように指導することが大切です。指導に当たっては、日常生活における問題を解決するためにデータを収集し、それらを整理して傾向を捉え、特徴を話し合う活動が考えられます。また、統計的に問題解決する際には相対度数を用いた方が傾向を比較しやすくなることを捉えるために、自らが収集した大きさの異なる2つ以上のデータを度数分布表や度数分布多角形に表して、その傾向を説明し合う活動を行うことが考えられます。
- ◇全体としては、事象を数学的に説明する問題において正答率が低く無解答率が高い傾向がありました。指導に当たっては、日常生活や社会事象における様々な問題を、数学的な見方・考え方を働かせて解決できるようにするために、実際の操作活動を取り入れることや、数学的な解釈に基づいた問題解決の方法を記述したり説明したりする活動を充実させることが大切です。

6 児童生徒質問紙調査に関する調査結果と改善のポイント

(1) 調査結果の記載内容について

児童生徒質問紙にある質問項目のうち、本市の児童生徒の学力と関連のある質問項目について取り上げています。

また、増設・新設された質問項目「ICTを活用した学習状況」「新型コロナウイルス感染症の影響」については、特徴が現れた項目を中心に掲載しました。

<調査結果と改善のポイントの概要>

- ・「基本的生活習慣」はおおむね身についています。
- ・「人の役に立つ人間になりたい」と意欲を持つ児童生徒の割合に比べ、「自分には、よいところがある」と思う割合はやや低い傾向にあります。
- ・「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取り組み状況」の質問への回答率から、授業改善に取り組んでいる成果が現れていると考えられます。
- ・「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と感じている児童生徒の割合が極めて高く、どの教科においても効果的に活用できるような工夫が大切となります。

※児童は「小学生」、生徒は「中学生」を表しています。

※時間数や頻度等を問う設問を除いて、「あてはまる」

「どちらかというにあてはまる」と回答した比率を合計しています。

(2) 調査結果

	質問項目	児童	生徒	
基本的生活習慣等	朝食を毎日食べている	95.7%	93.9%	
	就寝時刻が毎日ほぼ同じ	79.9%	75.6%	
	起床時刻が毎日ほぼ同じ	89.6%	89.6%	
自己有用感等	自分には、よいところがあると思いますか	76.4%	73.2%	
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.3%	92.4%	
学習習慣・学習環境等	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	71.8%	59.9%	
	平日に学校以外で勉強する時間	2時間以上	31.7%	53.7%
		1～2時間	24.3%	26.2%
		30分～1時間	23.8%	10.5%
	30分より少ないか全くしない	20.0%	9.6%	
地域や社会に関わる活動の状況等	今住んでいる地域の行事に参加している	50.5%	32.6%	

	質問項目		児童	生徒
ICTを活用した学習状況	今までに受けた授業では、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか。	ほぼ毎日	10.4%	12.0%
		週1回以上	22.9%	46.4%
		月1回以上	39.1%	29.3%
		月1回未満	27.2%	12.0%
	学校でコンピュータなどのICT機器を、他の児童生徒と意見を交換したり、調べたりするためにどの程度使用したか。	ほぼ毎日	6.9%	13.4%
		週1回以上	18.0%	35.8%
		月1回以上	32.9%	33.3%
月1回未満		41.8%	17.3%	
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ		93.3%	91.5%	
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取り組み状況	今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた		78.0%	78.6%
	今まで受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫した		70.1%	72.7%
	級友との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた		78.0%	69.2%
学習に対する興味・関心や授業の理解度等	国語の勉強が好き		54.3%	59.6%
	国語の勉強は大切だ		92.8%	90.1%
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ		90.8%	86.1%
	算数[数学]の勉強が好き		66.0%	57.8%
	算数[数学]勉強は大切だ		93.5%	77.2%
	算数[数学]の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ		91.4%	66.3%
新型コロナウイルス感染症の影響	学校が臨時休校中、勉強について不安があった		51.8%	57.5%
	学校が臨時休校中、計画的に学習を続けることができた		62.3%	37.4%
	学校が臨時休校中、規則正しい生活を送っていた		61.4%	45.5%
	学校が休校中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていたか (複数選択)	先生に聞いた	6.9%	8.7%
		友達に聞いた	29.0%	44.7%
		家族に聞いた	76.8%	43.0%
		自分で調べた	57.5%	59.3%
その他		34.7%	43.5%	

(3) 改善のポイント

「**基本的な生活習慣**」については、朝食の摂取率、就寝・起床の時刻についてはおおむね身についています。学校では日頃より基本的な生活習慣の実態把握に努め、必要に応じて生活習慣の改善について児童生徒に働きかけるとともに、保護者の協力を得られるように努めることが大切です。

「**自己有用感等**」については、「人の役に立ちたいと思う」という意欲を持つ児童生徒の割合が90%を超える高い数値であるのに対して、「自分には良いところがある」と回答した児童生徒は70%超とやや低い傾向にあります。児童生徒の「人の役に立ちたい」という意欲のさらなる向上を目指すとともに、良いことを自覚できるような言葉かけを継続的に行っていくことが大切です。

「**学習習慣・学習環境等**」については、自分で計画を立てて勉強している割合が児童においては71.8%、生徒においては59.9%となっています。また、平日に学校以外で勉強する時間が30分未満の割合が児童は20%、生徒は9.6%となっています。このことから、基礎学力の定着という観点において、学校での学習だけでなく、予習・復習などの家庭学習について、自ら計画的に取り組んでいけるよう指導を行っていくことが大切です。

「**地域や社会に関わる活動の状況等**」については、生活している地域の行事等への参加率は児童において50.5%、生徒で32.6%となっています。新型コロナウイルス感染拡大による各種行事の中止や部活動や塾などにより参加しにくい状況がうかがえますが、学校と保護者と地域の三者連携において参加のほたらきかけを強化したり、日程調整を工夫するなど、活性化へ向けた取り組みが望まれます。

「**ICTを活用した学習状況**」については、授業の中で、コンピュータなどのICT機器を週1回以上使用したのは児童で33.3%、生徒で58.4%となっています。また、ICT機器を他の児童生徒と意見を交換したり、調べたりするために週1回以上使用したのは、児童においては24.9%、生徒においては49.2%となっています。一人一台のICT端末が整備されたことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うことは勉強の役に立つと感じている児童生徒の割合が極めて高くなったと思われます。今後、どの教科においても効果的に活用できるような工夫が大切となります。

「**主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取り組み状況**」については、児童生徒が自ら考え取組んだり、発表に向けて工夫をしたりすること、級友との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることについては、児童生徒ともに70%から80%となっています。このことから、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる成果が現れていると考えられます。引き続きどの教科・領域等においても、児童生徒が主体的に学習に参加し、対話を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる授業づくりをすすめることが大切です。

「**学習に対する興味・関心や授業の理解度等**」については、国語、算数の学習は大切だと考える児童は90%を超え、生徒においても国語は90.1%、数学は77.2%となっています。しかし、その反面で国語、算数〔数学〕といった教科学習を「好き」と答える児童生徒の割合は60%前後にとどまっており、児童生徒が好きと感じ、意欲をもって学習に臨めるような授業の改善が必要です。

「**新型コロナウイルス感染症の影響**」については、学校が臨時休校中、学校からの課題で分からなかったことがあったときに「家族に聞いた」と回答した割合が児童で75%超、生徒で40%強と、家族の協力が得られたことが見受けられます。一方で、勉強について不安があった児童生徒が50%程度であり、計画的に学習を続けることができた生徒は40%を下回っています。今後の緊急事態に備え、児童生徒の不安を取り除くように個々への対応やICT等を活用した取組の準備が求められます。

7 今後の教育活動に向けて

新しい学習指導要領が全面実施され、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりをより充実させることが重要となりました。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から長期休校措置がとられたこと、休校明け以降現在に至るまで、学習活動の制限が余儀なくされたことは、今までに経験したことのない未曾有の事態と言えます。この状況下での児童生徒の学習保障は、教育委員会や学校が最優先に取り組むべき急務となりました。

また、GIGAスクール構想により、児童生徒に対して一人一台端末が配付され、ICTを活用した学習展開が一層求められるようになりました。

このような背景の中、児童生徒の確かな学力を育むために、学校長の指揮・監督のもと、ミドルリーダーを中心に、教職員同士が児童生徒の学力等について共通理解を図り、意欲的に校内研究、授業構築に取り組むことが必要です。

また同時に、小・中学校合同の研修や教職員どうしの交流の活性化を図り、9年間を見通した教育連携の充実を図ることや、家庭や地域に協力依頼し、協働して教育活動を進めることが児童生徒の学力向上のうえで大切となります。

(1) 教育委員会における今後の取り組み

ア 今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、校長会等で各学校に周知します。また、教育委員会のホームページで公開し、広く保護者・市民の皆様へも情報提供します。

イ 本市の児童生徒は、自分の考えを書くことや説明することについて、課題が見られることから、思考力・判断力・表現力等に係る力の育成を意識した授業改善の工夫や取り組みの必要性を学校に対して働きかけます。

ウ 学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」への授業改善の視点をもとに、児童生徒一人ひとりの資質・能力の向上を図るための「わかる授業づくり」に向け、指導主事が各学校への計画訪問や要請訪問を通して、指導・助言を行います。

エ 教育文化センターを中心に、授業における指導方法の改善を目指した研修講座や「教科・領域」研修講座、学習活動におけるICTの効果的な活用に関する研修講座の開催や小・中教職員どうしが連携・交流を図ることのできる研究・研修の充実などにより、教員のスキルアップを図ります。

オ 基本的な生活習慣と学習習慣は、一体となるもので、共に定着させることを目指す必要があります。そのために、学校が児童生徒一人ひとりの生活習慣の定着の維持や学習習慣の確立を保護者と連携して取り組めるよう、学校に対して働きかけます。

(2) 学校教育における今後の取り組み

- ア 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体で結果を共有することが必要です。その際、学年会、教科会等において、児童生徒の課題となる点を話し合い、チームで授業改善を行い、指導計画等に反映させることが重要です。
- イ 児童生徒への質問紙調査の結果から、「人の役に立ちたい」という意欲を持つ児童生徒の割合が高いのに対して、「自分には良いところがある」と回答した割合は、やや低い傾向にあります。「他人の役に立った、喜んでもらった」といった自己有用感の獲得には「異年齢集団による交流」が効果的だと言われています。授業等をはじめ、クラブ活動や部活動による交流や委員会活動等、児童生徒の「人の役に立ちたい」という意欲のさらなる向上を目指すための活動を、増やしたり言葉かけをしたりすることを継続的に取り組むことが大切です。
- ウ 教科学習を大切だと考える児童生徒の割合が高い数値であったことに対して、教科学習が「好き」と回答した割合は比較して低い結果となりました。すべての児童生徒が好きと感じ、意欲をもって学習に臨めるような授業の改善が必要です。
- エ 児童生徒への質問紙調査の「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取り組み状況」に係る各質問の回答から、これまでの取り組みの成果が表れていることがわかりました。引き続きどの教科・領域等においても、児童生徒が主体的に学習に参加し、対話を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる授業づくりを進めることが大切です。
- オ 児童生徒への質問紙調査においては、「学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強に役立つ」という回答の割合が高く、ICTの学習における活用は期待されていることがうかがえます。今後も、授業でのICT機器の活用や児童生徒が学習用タブレットを家庭に持ち帰った際の活用について、校内研究や研修会等を設け、校内のどの教師も一定のスキルを持ち実践できるように努めることが大切です。
- カ 児童生徒一人ひとりが自分にあった学習方法を見つけ、自分で計画して学習を進められるよう、学習の手立て（学習の方法）を指導する必要があります。また、児童生徒の基本的な生活習慣の実態把握に努め、生活習慣の定着の維持や学習習慣の確立に向けて、児童生徒一人ひとりに働きかけることが大切です。

(3) 保護者に向けて

保護者の皆様へ

児童生徒質問紙の内容から、学習習慣や生活習慣についてご家庭においてお考えいただきたいことが見えてきました。お子様と話し合う時間をとっていただき、日々の生活を見直してくださるようお願いいたします。

○ 学習習慣について

学力向上のためには、学校での学習とともに、家庭での学習が大切です。家庭学習には、教科書を基にした学校の予習や復習が、学校での学習につながり効果的です。お子様が自分にあった方法で主体的に学習に取り組めるよう、励ましの声かけをしてあげてください。

また、宿題などの家庭学習や休校措置等が取られた際に、お子様が学校より支給された学習用タブレットを持ち帰り、学習に取り組むことがあります。例えば、家庭学習や宿題、学校との通信等を行うために、ご家庭で学習用タブレットを使用することについて学校より依頼がありましたら、使用する時間帯や使用時間等、お子様が適切に使用できるようご協力をお願いいたします。

なお、お子様の家庭学習の取り組みについてご不明な点や不安な点がございましたら、学校や学級担任にご相談ください。

○ 生活習慣について

調査の結果、朝食の摂取率、就寝・起床の時刻については、以前の調査結果とほぼ変わらず、おおむね身に付いていることがわかりました。

一方で、放課後の時間の使い方について、テレビの視聴、ゲームやスマートフォンの使用にあてる時間が長いお子様が依然として多く見られます。家庭での時間の使い方について、話し合ってくださいますようお願いいたします。

また、お子様がお住いの地域に即した生活が送れるように、地域の行事への参加を促すなど、ご協力をお願いいたします。